

はやりすたり

巻頭言



金属労協(JCM)事務局長
浅沼弘一

暦がぐるりと回って余るぐらい生きてると、目の前でいろいろなものがはやり、そしてすたれ、忘れられていくのを目の当たりにしてきた。ほとんどのはやりは長続きせずすたれていく。中でも、もうけようという下心をもって作られたはやりは、ひともうけした後は用済みなのですたれていくのは必然。はやりの多くはそういう仕掛けられたはやりなのではないかと思う。ただ、好運に恵まれてか、あるいは下心がなかったのか、すたれることなく、めでたく日常に収まるものの中にはある。あるいはそういうものは、はやりと言うよりも、世の中が変わっていく先端部分なのかもしれない。今はやっている在宅勤務などの新しい働き方は、はやりにならず日常に収まればいいのと思う。

はやりつながりで「はやりやまい」という言葉があるが、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)はまさにそれである。ウィルスと人類の戦いの中で、多くの先人が経験したことを、現代の我々も今経験しているのである。すたれるまでの道筋が未だに見えないが、これまでの人類の歴史を見れば、いつかはすたれる日が

来るのだが、それが遠くない将来であることを願う。

今回の特集でとりあげたSDGsも、はやりになっているようだ。このGWあたりからテレビでしきりにSDGsを宣伝している。SDGsという言葉が広く知られることになるのは歓迎すべきことである。しかしながら、SDGsは環境問題への取り組みのことであると勘違いされかねないような言い方をされていることに懸念を覚える。目標5には「ジェンダー平等の実現」が掲げられているし、目標8には我々労働組合が最も注目すべき「働きがいと経済成長」を掲げている。SDGsの目標をおく分野は広く、人々にすべてを理解してもらうことは難しかりょうと思うが、わかりやすい環境問題だけにすりかえるのはいかがなものかと思う。なぜそうなるのか知りたくてWebで検索してみると、SDGsの市場規模について調査したレポートがいくつかヒットした。これらによると、SDGsのもたらす市場規模は全世界で多く見積もって800兆円になるようである。SDGsのはやりにお金のおいがる。目標ごとの市場規模が分析されていて、期待さ

れる市場規模が最も大きいのは、目標7の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」である。なるほど環境問題につながなくなる理由のひとつはここにあるのかと思う。まあ、経済活動の中で生きている我々にとって市場は重要であるし、市場があってこそものづくりが成り立つので、我々にとって悪いことではないが、しかしあまりにも単純すぎはしないか。

今回の特集はそういうこともあって、SDGsは環境問題だけではないということ、少なくとも労働組合にかかわる人たちに再認識していただき、職場の人に説明するための材料を提供しようともくろんだものにした。幸い、様々な立場の方々に執筆・インタビューできたので、幅広い情報は提供できたのではないかと思う。この特集を通じて、SDGsの目指すところを広く理解し、環境問題だけがその目指すところではなく、目標5ではジェンダー平等を、目標8では働きがいと経済成長を目標にしていることを職場に広め、SDGsをすたれてしまうものにならないようにしたい。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS